

ガラテヤ 11回  
「産みの苦しみ」  
—感情に基づく議論—  
ガラ 4:12~20

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1:1~2:21）
- ②教理的教え：信仰義認（3:1~4:31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5:1~6:18）

(3) 文脈の確認

- ①3~4章は、ガラテヤ人たちに対する教理的教えである。
  - \*パウロは、旧約聖書から論じる。
  - \*律法主義者たちが誇りとしていた旧約聖書を用いて彼らを論駁する。
- ②4章の内容
  - \*ディスペンセーションに基づく議論（1~11節）
  - \*感情に基づく議論（12~20節）
  - \*比喩に基づく議論（21~31節）
- ③今回は、感情に基づく議論（12~20節）を取り上げる。
- ④ガラ 4:11

Gal 4:11 私は、あなたがたのために労したことが無駄になったのではないかと、あなたがたのことを心配しています。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 信仰の手本（12節 a）
- (2) パウロとガラテヤ人たちの関係（12b~16節）
- (3) 産みの苦しみ（17~20節）

3. 結論

- (1) カルト集団の手法
- (2) 弱さの中に働く神の力

感情に基づく議論について学ぶ。

## I. 信仰の手本 (12節 a)

### 1. 12節 a

**Gal 4:12a** 兄弟たち、あなたがたに願います。私もあなたがたのようになったのですから、あなたがたも私のようになってください。

- (1) パウロは、自分が信仰の手本であるとアピールしている。
  - ①「兄弟たち」と呼びかける。
  - ②彼らが律法主義に傾いても、依然としてキリストにある兄弟たちである。
  - ③パウロから受けた恩義を忘れても、依然として兄弟たちである。
  
- (2) 「私もあなたがたのようになったのですから」
  - ①自分はキリストを信じたとき、律法から自由になり、異邦人のようになった。
  - ②そして今は、律法の下にはいない。
  
- (3) 「あなたがたも私のようになってください」
  - ①ガラテヤ人たちは、回心後に自らを律法の下に置くようになった。
  - ②彼らもまた、パウロのように律法から自由になるべきである。
  - ③パウロが彼らにとっての信仰の手本である。

## II. パウロとガラテヤ人たちの関係 (12b～18節)

### 1. 12b～13節

**Gal 4:12b** あなたがたは私に悪いことを何一つしていません。

**Gal 4:13** あなたがたが知っているとおりに、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かったためでした。

- (1) 12節 b は、次の 13 節の一部だと考えるべきである。
  - ①節の区切りを信頼しすぎないこと。
  - ②訳文の比較  
「あなたがたは私に悪いことを何一つしていません」 (新改訳 2017)  
「あなたがたは、わたしに何一つ不当な仕打ちをしませんでした」 (新共同訳)  
「あなたがたは、一度もわたしに対して不都合なことをしたことはない」 (口語訳)  
「汝ら何事にも我を害(そこな)ひしことなし」 (文語訳)
  
- (2) パウロは、ガラテヤ人たちに受け入れてもらったことを回顧(使 13～14 章)。
  - ①13 節は、(新共同訳) の訳文が分かりやすい。

「知ってのとおり、この前わたしは、体が弱くなったことがきっかけで、あなたがたに福音を告げ知らせました」(新共同訳)

- ② どういう病気であるかは分からないが、パウロは弱さを覚えていた。
- ③ 本来なら先を急いでいたが、弱さのゆえにその地に滞在した、ということか。

## 2. 14節

**Gal 4:14** そして私の肉体には、あなたがたにとって試練となるものがあつたのに、あなたがたは軽蔑したり嫌悪したりせず、かえって、私を神の御使いであるかのように、キリスト・イエスであるかのように、受け入れてくれました。

- (1) パウロの肉体には、軽蔑の対象となるような弱さがあつた。

- ① 眼病か。
- ② マラリアか。

- (2) しかしガラテヤ人たちは、パウロに好意を示した。

- ① 彼らは、パウロを軽蔑したり嫌悪したりはしなかった。
- ② かえって、神の御使いであるかのように、受け入れてくれた。

\*神から遣わされた使者(メッセンジャー)

- ③ キリスト・イエスであるかのように、受け入れてくれた。

\*キリスト・イエスの代理人

- ④ マタイ 10:40

**Mat 10:40** あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。

- ⑤ キリストのことばを伝える人を受け入れる者は、キリストご自身を受け入れるのである。

## 3. 15~16節

**Gal 4:15** それなのに、あなたがたの幸いは、今どこにあるのですか。私はあなたがたのために証しますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出して私に与えようとさえしたのです。

**Gal 4:16** それでは、私はあなたがたに真理を語ったために、あなたがたの敵になつたのでしょうか。

- (1) 「それなのに、あなたがたの幸いは、今どこにあるのですか」

- ① 福音を初めて聞いたとき、彼らはそれをこの上もなく幸いだと感じた。
- ② それなのに、今はその感動から遠く離れてしまった。

- (2) 彼らは感動のあまり、自分の目をえぐり出してパウロに与えようとさえした。

- ①パウロの「肉のトゲ」とは眼病であると主張する根拠が、ここにある。
- ②「肉のトゲ」がなんであるかを詮索する必要はない。
- ③その感動と感謝が、露のように消え去った。

(3) 彼らがパウロに対する態度を変えた理由は、なんなのか。

- ①パウロは依然として、同じ真理を語り続けている。
- ②それが理由でパウロは彼らの敵になったのか。
- ③もしそうなら、彼らは非常に危険な状態にある。

### Ⅲ. 産みの苦しみ (17~20 節)

#### 1. 17~18 節

**Gal 4:17** あの人たちはあなたがたに対して熱心ですが、それは善意からではありません。彼らはあなたがたを私から引き離して、自分たちに熱心にならせようとしているのです。

**Gal 4:18** 善意から熱心に慕われるのは、いつでも良いことです。それは、私があなたがたと一緒にいる時だけではありません。

(1) 律法主義者たちはガラテヤ人たちに対して熱心である。

- ①しかしそれは、善意からではない。
- ②彼らの動機は、自己中心的である。
- ③ガラテヤ人たちをパウロとその教えから切り離そうとしている。
- ④そして、自分たちの支配下に人々を集めようとしている。
- ⑤彼らのゴールは、人々を自分たちに熱心にならせることである。

(2) パウロがそばにいてもいなくても、善意の行為によって人々から熱心に慕われるのは良いことである。

- ①もし律法主義者たちが善意で行動しているなら、自分は構わない。
- ②しかし、律法主義者たちは、善意で行動しているわけではない。

#### 2. 19 節

**Gal 4:19** 私の子どもたち。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。

(1) 「私の子どもたち」

- ①ガラテヤ人たちを霊的に誕生させたのは、パウロである。
- ②パウロは、彼らの霊的母親である。

(2) そのパウロが、再び産みの苦しみをしている。

- ①今度は、救いのための産みの苦しみではない。
- ②ガラテヤ人たちを律法主義者たちから解放するための苦しみである。
- ③さらに、彼らのうちにキリストが形造られるための苦しみである。
- ④キリストの似姿に変えられることが、キリスト教信仰のゴールである。
- ⑤エペ4:13

**Eph 4:13** 私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

⑤コロ1:28

**Col 1:28** 私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです。

### 3. 20節

**Gal 4:20** 私は今、あなたがたと一緒にいて、口調を変えて話せたらと思います。あなたがたのことで私は途方に暮れているのです。

- (1) パウロは、ガラテヤ人たちのことで途方に暮れている。
  - ①彼らは、救われた後、霊的に成長していないからである。
  - ②その状況を変えるために、厳しい口調でこの手紙を書いている。
  - ③しかし、この手紙に対してどのような反応があるかは、分からない。
- (2) パウロの願いは、彼らと会って話すことである。
  - ①その場合は、口調を変えて話すことができる。
  - ②優しいが、毅然とした口調で彼らを諭すことができる。

### 結論：

#### 1. カルト集団の手法

- (1) **カルト集団は、人々を集めることに熱心である。**
  - ①しかしそれは、善意からではない。
  - ②彼らの動機は、自己中心的である。
  - ③人々を聖書の教えから切り離そうとしている。
  - ④そして、自分たちの支配下に人々を集めようとしている。
  - ⑤彼らのゴールは、人々を自分たちに熱心にならせることである。
- (2) **キリスト教の異端クオンパ（グッドニュース宣教会）**
  - ①韓国系異端のクオンパ（救援派）から、Eメールが届いた。
  - ②地域教会にも電話をかけている。

③クオンパは、韓国の主要教団から異端カルトと認定されている。

④クオンパの教理

\*クリスチャンは、救われていない。

\*「救いは悟りによって得られる」(グノーシス主義に似ている)

\*律法は完全に撤廃されたので、自分で犯す罪は成り立たない。

\*悔い改める人は、救われていない地獄の子である。

## 2. 弱さの中に働く神の力

(1) 神は、往々にして弱い者をご自身の器としてお用いになる。

①それは、弱さの中に働く神の力を示すためである。

②2コリ 4:7

2Co 4:7 私たちは、この宝を土の器の中に入れていますが。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。

**ガラテヤ 12回**  
**「奴隷の子か自由の子か」**  
**－比喻に基づく議論－**  
**ガラ 4：21～31**

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

- ①3～4章は、ガラテヤ人たちに対する教理的教えである。
  - \*律法主義者たちが誇りとしていた旧約聖書を用いて彼らを論駁する。
- ②4章の内容
  - \*ディスペンセーションに基づく議論（1～11節）
  - \*感情に基づく議論（12～20節）
  - \*比喻に基づく議論（21～31節）
- ③今回は、比喻に基づく議論（12～20節）を取り上げる。
  - \*律法主義者は、アブラハムに倣って割礼を受けるべきであると教えた。
  - \*そこでパウロは、アブラハムの家庭生活を取り上げて議論を進める。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 歴史的事実の確認（21～23節）
- (2) 比喻的意味の発見（24～27節）
- (3) 個人的適用（28～31節）

3. 結論

- (1) 字義通りの解釈と比喻的解釈
- (2) 神の恵みと終末論

比喻に基づく議論について学ぶ。

## I. 歴史的事実の確認 (21~23)

### 1. 21 節

**Gal 4:21** 律法の下にいたいと思う人たち、私に教えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。

- (1) ここでの「律法」は、2つの異なった意味を持っている。
  - ①「律法」はギリシア語で「ノモス」、英語で「law」である。
  - ②最初の「律法」という言葉は、モーセの律法である。
    - \*ガラテヤ人たちは、律法を行って聖化を得ようとしていた。
    - \*彼らは、その律法の下にいたいと思うほどになっていた。
  - ③次の「律法」という言葉は、モーセの五書（あるいは旧約聖書）である。
    - \*創世記から申命記までの五書。本来は、一卷の書である。
    - \*特にここでは、創世記を指している。
- (2) 「あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか」
  - ①「あなたがたは、創世記のメッセージに耳を貸さないのですか」
  - ②「創世記のメッセージを理解できないのですか」

### 2. 22~23 節

**Gal 4:22** アブラハムには二人の息子がいて、一人は女奴隷から、一人は自由の女から生まれた、と書かれています。

**Gal 4:23** 女奴隷の子は肉によって生まれたのに対し、自由の女の子は約束によって生まれました。

- (1) アブラハムには、2人の息子がいた。
  - ①実際は、アブラハムには8人の息子がいた。
  - ②創世 25 : 1~2

**Gen 25:1** アブラハムは、再び妻を迎えた。その名はケトラといった。

**Gen 25:2** 彼女はアブラハムに、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミディアン、イシュバク、シュアハを産んだ。

\*ここでは、ケトラから生まれた6人の息子は除外されている。

- (2) 2人の息子とは、イシュマエルとイサクである。
  - ①イシュマエルは女奴隷から生まれた。
    - \*女奴隷とは、ハガルである。
  - ②イサクは自由の女から生まれた。
    - \*自由の女とは、サラである。

(3) イシュマエルとイサクは、対照的な方法で母の胎に宿った。

①イシュマエルは、「肉によって生まれた」。

\*自然の方法で、夫婦の変わりによって母の胎に宿った。

\*そこには、アブラハムとサラの人間的な策略があった。

\*イシュマエルは、神の約束とは無関係に誕生した。

②イサクは、「約束によって生まれた」。

\*人間的には、出産が不可能な夫婦から生まれた。

\*神の約束によって、奇跡的に母の胎に宿った。

\*「約束 (promise)」の前に「the」を付ける訳がある (NASV)。

\*その場合は、約束の内容がより具体化する。

\*創 17 : 19

Gen 17:19 神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼と、わたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。

\*創 18 : 10

Gen 18:10 すると、そのうちの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのもとに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」サラは、その人のうしろの、天幕の入り口で聞いていた。

\*神の約束は、必ず成就する。

## II. 比喩的意味の発見 (24~27 節)

### 1. 24a

Gal 4:24a ここには比喩的な意味があります。

(1) 訳文の比較

「ここには比喩的な意味があります」 (新改訳 2017)

「これには、別の意味が隠されています」 (新共同訳)

「さて、この物語は比喩としてみられる。」 (口語訳)

「この中(うち)に譬あり」 (文語訳)

「ところで、この実話は、神様が人間を助けるために開かれた二つの道を示しています」 (リビングバイブル)

### 2. 24b~26 節

Gal 4:24b この女たちは二つの契約を表しています。一方はシナイ山から出ていて、奴隷となる子を産みます。それはハガルのことです。

**Gal 4:25** このハガルは、アラビアにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、今のエルサレムは、彼女の子らとともに奴隷となっているからです。

**Gal 4:26** しかし、上にあるエルサレムは自由の女であり、私たちの母です。

(1) パウロはアブラハムの実生活から、5つの対比を取り出す。

- ①2人の女の対比（ハガルとサラ）
- ②2人の息子の対比（イシュマエルとイサク）
- ③2つの契約の対比（シナイ契約とアブラハム契約）
- ④2つの山の対比（シナイ山とゴルゴタの丘）
- ⑤2つのエルサレムの対比（地上のエルサレムと天のエルサレム）

(2) 「この女たちは二つの契約を表しています」

- ①ハガルは、シナイ契約の象徴である。
- ②シナイ契約は、シナイ山で結ばれた。
- ③シナイ契約は、奴隷の子を産んだ。
- ④地上のエルサレムは、ローマの支配下にある。
- ⑤そして、エルサレムの住民であるユダヤ人たちは、律法の奴隷となっている。

(3) ここでは、アブラハム契約への言及が省略されている。

- ①サラは、アブラハム契約の象徴である。
- ②アブラハム契約は、カルバリの丘で成就した。
- ③アブラハム契約は、メシアの誕生を約束している。
- ④そのメシアを通して、自由の子が誕生する。
- ⑤信仰によって義とされた人々が住む場所は、天のエルサレムである。
- ⑥天のエルサレムは、信者（ユダヤ人も異邦人も）にとって母である。

### 3. 27節

**Gal 4:27** なぜなら、こう書いてあるからです。／「子を産まない不妊の女よ、喜び歌え。／産みの苦しみを知らない女よ、喜び叫べ。／夫に捨てられた女の子どもは、／夫のある女の子どもよりも多いからだ。」

(1) イザヤ 54：1 の引用

- ①イザ 54章の預言は、アッシリヤに圧迫されていた時代に与えられた。
- ②聖書では、神とイスラエルの民の関係が、夫婦関係にたとえられる。
- ③神が、妻であるエルサレムに優しく語りかける。
- ④「子を産まない不妊の女よ」は、荒廃させられたエルサレムを指している。
- ⑤「喜び歌え」は、荒廃の後に来る回復の希望を指している。
- ⑥エルサレムは優しい夫によって回復され、以前以上に祝福される。

- ⑦「夫のある女の子どもよりも多いからだ」
- ⑧天の都の市民には、ユダヤ人も異邦人も含まれている。
- ⑨その数は、律法の下にいる者よりも多くなる。

### Ⅲ. 個人的適用 (28～31 節)

#### 1. 28～29 節

**Gal 4:28** 兄弟たち、あなたがたはイサクのように約束の子どもです。

**Gal 4:29** けれども、あのとき、肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりになっています。

(1) 信者は、肉の努力によってではなく、神の約束によって超自然的に生まれた。

①信者は、イサクのように約束の子どもである。

(2) イシュマエルは、イサクを迫害した。

①創 21：8～9

**Gen 21:8** その子は育って乳離れした。アブラハムはイサクの乳離れの日に、盛大な宴会を催した。

**Gen 21:9** サラは、エジプトの女ハガルがアブラハムに産んだ子が、イサクをからかっているのを見た。

②イシュマエルは律法主義者の象徴であり、イサクは新生した者の象徴。

③主イエスもパウロも、新生していない者たちから迫害された。

④今も、真の信者は律法主義者たちによって苦しめられている。

#### 2. 30 節

**Gal 4:30** しかし、聖書は何と言っていますか。「女奴隷とその子どもを追い出してください。女奴隷の子どもは、決して自由の女の子どもとともに相続すべきではないのです。」

(1) ガラテヤ人たちは、聖書に基づいて判断するように命じられた。

①奴隷の子どもが自由の子どもと一緒に相続することはあり得ない。

②律法と恵みが両立することは、あり得ない。

#### 3. 31 節

**Gal 4:31** こういうわけで、兄弟たち、私たちは女奴隷の子どもではなく、自由の女の子どもです。

(1) パウロの結論

①パウロとガラテヤの信者たちは、自由の女の子である。

②それゆえ、相続に与ることができる。

**結論：**

**1. 字義通りの解釈と比喩的解釈**

- (1) ハーベスト・タイムは、字義通りの解釈を強く主張している。
  - ① 著者の意図を探ることが解釈のゴールである。
  - ② 解釈は一つ、適用は多数ある。
- (2) ここでのパウロの議論は、いわゆる比喩的解釈とは違う。
  - ① 彼は、聖句を字義通りに解釈した後、そこに象徴的な意味を見出している。
  - ② これは、律法と恵みを対比させるための「例話」である。
  - ③ パウロは、ヒレル学派でラビ教育を受けた。
    - \* この学派の解釈学のルールが、タルムードの土台となっている。
    - \* パウロは、ラビ的積義に基づく「束縛と自由の比較」を行っている。
  - ④ 現代人には難解であるが、当時のユダヤ人に対しては説得力があった。

**2. 神の恵みと終末論**

- (1) 救いと聖化は、律法の業によるのか、恵みと信仰によるのか。
- (2) パウロの議論は、終末論に直結している。
  - ① 「アバ、父よ」と呼ぶ者だけが神の子である。
  - ② 神の子だけが、神の相続人となる。
  - ③ 神の子だけが、天のエルサレムに住むようになる。
  - ④ **ロマ 8:17**

**Rom 8:17** 子どもであるなら、相続人もあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

**ガラテヤ 13回**  
**「律法主義はなぜ良くないのか」**  
**ガラ 5：1～6**

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

①5章の内容

- \* 律法主義の弊害（1～6節）
- \* 自由の使い方（7～15節）
- \* 罪に対する勝利（16～21節）
- \* 御霊の実（22～26節）

- ②今回は、律法主義の弊害（1～6節）を取り上げる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 律法主義は、恵みを破壊する（1～2節）。
- (2) 律法主義は、人に重荷を負わせる（3節）。
- (3) 律法主義は、愛の行為を産み出さない（4～6節）。

3. 結論

- (1) パウロの権威（ガラ 5：2）
- (2) 信者の特徴（ガラ 5：5）

律法主義の弊害について学ぶ。

I. 律法主義は、恵みを破壊する（1～2節）。

1. 1節

**Gal 5:1** キリストは、自由を得させるために私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは堅く立って、再び奴隷のくびきを負わされないようにしなさい。

(1) この節の役割は、2つある。

①ガラテヤ4章全体の要約となっている。

\*4章のテーマは、「束縛と自由の対比」であった。

②ガラテヤ5章全体へのイントロダクションとなっている。

\*5章のテーマは、「キリスト者の自由の擁護」である。

(2) 4章の最後の聖句の確認（ガラ4:31）

**Gal 4:31** こういうわけで、兄弟たち、私たちは女奴隷の子どもではなく、自由の女の子どもです。

①信者の身分は、女奴隷の子どもではなく、自由の女の子どもである。

②それゆえ、自由の子として生きるべきである（ガラ5:1）。

(3) キリストは、私たちにとっては大いなる解放者である。

①律法は、人にはできないことを要求して来る。

②律法は、それを守れない人を罪に定める。

③キリストは、十字架の死によって律法の要求を満たされた。

④キリストを信じる者は、律法の下から解放される。

⑤キリストは聖霊を送り、信者が自由の子として生きることができるようになってくださる。

(4) ガラテヤ人たち（異邦人信者）は、かつては偶像の奴隷であった。

①キリストを信じたときに、自由の子とされた。

②ところが彼らは、奴隷のくびきを負わされようとしている。

\*奴隷のくびきとは、律法のことである。

③そうならないためには、パウロから学んだ真理に立ち続ける必要がある。

④キリストを信じる信仰によって自由にされたという確信を持ち続ける必要がある。

## 2. 2節

**Gal 5:2** よく聞いてください。私パウロがあなたがたに言います。もしあなたがたが割礼を受けるなら、キリストはあなたがたに、何の益ももたらさないこととなります。

(1) 「よく聞いてください」

①ギリシア語で「イデ」、英語で「Behold」である。

②「見よ」（口語訳）

③重要なことを述べる前の注意を喚起する呼びかけである。

(2) パウロは割礼そのものを否定しているのではない。

- ①パウロは、弟子のテモテに割礼を受けさせている(使16:1~3)。
- ②その場合の割礼の目的は、テモテの働き領域を広げるためであった。
- ③パウロが否定しているのは、救われるために割礼を受けることである。
- ④パウロにとっては、割礼は業による救いの象徴である。

(3) パウロは、割礼を受けようとしているガラテヤ人たちに、警告を発している。

- ①もし割礼を受けるなら、キリストの死は無意味なものになってしまう。
- ②業による救いと、恵みによる救いは、相反する概念である。

## II. 律法主義は、人に重荷を負わせる(3節)。

### 1. 3節

**Gal 5:3 割礼を受けるすべての人に、もう一度はっきり言うておきます。そういう人には律法全体を行う義務があります。**

(1) 律法主義は、恵みを破壊するだけでなく、別の問題を作り出す。

- ①割礼を受けるなら、その者には律法全体を行う義務が生じる。
- ②律法は集合体なので、割礼を受けた者は、律法全体に責任を負うことになる。
- ③それは、負債を負った状態である。

\*ギリシア語の「オフエイレテイス」、英語の「debtor」。

\*「かれは律法(おきて)の全體を行ふべき負債(おひめ)あり」(文語訳)

④ガラ3:10の再確認

Gal 3:10 律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる」と書いてあるからです。

⑤ヤコ2:10

Jas 2:10 律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです。

(2) 人は、100%律法の下にいるか、解放されているかのどちらかである。

- ①中間形は、存在しない。
- ②これは、過去に割礼を受けた人への言葉ではない。
- ③これは、救いや聖化のために割礼を受けようとしている人への警告である。

### Ⅲ. 律法主義は、愛の行為を産み出さない（4～6節）。

#### 1. 4節

**Gal 5:4** 律法によって義と認められようとしているなら、あなたがたはキリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。

(1) この聖句を根拠に、救いは失う可能性があると言主張する人がいる。

- ①これを「the falling away doctrine」という。
- ②真に救われていても、罪に陥る可能性がある。
- ③その人は、恵みから落ち、永遠に失われる。

(2) その説に対する反論

- ①この聖句は、罪を犯した信者を描写したものではない。
- ②クリスチャンになっても、罪を犯すことがある。
- ③その説が正しいなら、救われる人は誰もいなくなる。
- ④新約聖書が教えているのは、信者は永遠に救われているということ。

(3) この聖句の正しい解釈

- ①律法による義を求める人は、キリストから離れてしまった。
- ②その人は、キリストが与える恵みから落ちてしまった。
- ③つまり、義認（救い）の方法をなくしてしまったということである。

#### 2. 5節

**Gal 5:5** 私たちは、義とされる望みの実現を、信仰により、御霊によって待ち望んでいるのですから。

(1) 信仰によって救われた者には、律法主義者と対照的な特徴がある。

- ①「待ち望んでいる」
  - ②「義とされる望みの実現を」
  - ③「信仰により、御霊によって」
- \*詳細は、結論で取り上げる。

#### 3. 6節

**Gal 5:6** キリスト・イエスにあって大事なものは、割礼を受ける受けないではなく、愛によって働く信仰なのです。

(1) さらに、信仰によって救われた者の特徴が記される。

- ①割礼を受けているかどうかは、問題ではない。
- ②それは、救いとはなんの関係もない。

(2) 大切なのは、愛によって働く信仰である。

①救いは、行いとは無関係に、信仰のみによって与えられる。

②しかし、真の信仰は、行いとなって外側に表現される。

③愛によって働く信仰が、愛の行いを産み出す。

④エペ2:10

**Eph 2:10** 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

⑤ヤコ2:17

**Jas 2:17** 同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。

**結論：**

#### 1. パウロの権威 (ガラ5:2)

**Gal 5:2** よく聞いてください。私パウロがあなたがたに言います。もしあなたがたが割礼を受けるなら、キリストはあなたがたに、何の益ももたらさないことになります。

(1) 「私パウロがあなたがたに言います」

①パウロは、自らの使徒職の弁明を行った(ガラ1~2章)。

②ここでパウロは、使徒の権威をもって語っている。

③彼は、神から委ねられた使命を果たしている。

④**2コリ10:1、コロ1:23、エペ3:1参照**

(2) 神のことばを語る説教者には、神の権威が伴う。

①その権威は、説教者自身のものではなく、神から付与された権威である。

②その権威は、神のことばを忠実に語っているという枠内でのみ有効である。

#### 2. 信者の特徴 (ガラ5:5)

**Gal 5:5** 私たちは、義とされる望みの実現を、信仰により、御霊によって待ち望んでいるのですから。

(1) 待ち望むは、ギリシア語で「アペクデコマイ」である。

①新約聖書に7回出て来る。

(2) 聖句

①**ロマ8:19**

**Rom 8:19** 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。

②**ロマ8:23**

**Rom 8:23** それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にしてください、すなわち、私たちのからだを贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。

③ロマ 8：25

**Rom 8:25** 私たちはまだ見ていないものを望んでいるのですから、忍耐して待ち望みます。

④1 コリ 1：7

**1Co 1:7** その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっています。

⑤ガラ 5：5

**Gal 5:5** 私たちは、義とされる望みの実現を、信仰により、御霊によって待ち望んでいるのですから。

⑥ピリ 3：20

**Php 3:20** しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

⑦ヘブ 9：28

**Heb 9:28** キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます。

(3) 信者は、何を待ち望んでいるのか。

①キリストの再臨

②復活

③救いの完成（栄化）

**ガラテヤ 14回**  
**「クリスチャンは何をしてもいいのか」**  
**ガラ 5：7～15**

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

①5章の内容

- \* 律法主義の弊害（1～6節）
- \* 自由の使い方（7～15節）
- \* 罪に対する勝利（16～21節）
- \* 御霊の実（22～26節）

- ②今回は、自由の使い方（7～15節）を取り上げる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) わずかなパン種（7～10節）
- (2) 十字架のつまずき（11～12節）
- (3) キリスト者の自由（13～15節）

3. 結論

- (1) 十字架のつまずき（ガラ 5：11）
- (2) キリスト者の自由（ガラ 5：13）

律法主義の弊害について学ぶ。

**I. わずかなパン種（7～10節）**

1. 7～8節

**Gal 5:7** あなたがたはよく走っていたのに、だれがあなたがたの邪魔をして、真理に従わないようにさせたのですか。

**Gal 5:8** そのような説得は、あなたがたを召された方から出たものではありません。

(1) 信仰生活がレース（競技）にたとえられている。

①パウロは、好んでこのたとえを用いている。

\*1 コリ 9：24～26

\*2 テモ 4：7

**2Ti 4:7** 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

(2) ガラテヤ人たちは、よいスタートを切った。

①しかし、このレースに誰かが割り込んで来た。

②「誰」は単数形である。律法主義者のリーダーが想定されているのであろう。

③彼は、信者たちの走りを妨害した。

④コースから逸れるように妨害した（真理から逸脱するように仕向けた）。

(ILL) **2004年アテネオリンピックの男子マラソン選手デ・リマ（ブラジル）**

①36km 地点までトップを走っていた。

②突如沿道から乱入したニール・ホランに抱きつかれ、歩道に押し出された。

③約10秒間のロスタイムが生じ、その直後からペースを崩してしまった。

④結局3位でゴールインし、銅メダルを獲得した。

⑤レースを妨害したホランは、逮捕された。

⑥国際オリンピック委員会から、ピエール・ド・クーベルタン・メダル（クーベルタン男爵の名をつけた特別メダル）が、デ・リマに贈呈された。

(3) 律法主義者の教えは、彼らを召された方から出たものではない。

①「そのような説得は、」（新改訳2017）

②「このような誘いは、」（新共同訳）

③「そのような勧誘は、」（口語訳）

④「かかる勧めは」（文語訳）

(4) ガラ 1：6 の再確認

**Gal 1:6** 私は驚いています。あなたがたが、キリストの恵みによって自分たちを召してくださった方から、このように急に離れて、ほかの福音に移って行くことに。

①神は、恵みによって、彼らを恵みへと導いてくださった。

②それゆえ、律法主義者たちの教えは、神からのものではない。

③その教えを受け入れるなら、ほかの福音に移っていくことになる。

## 2. 9節

**Gal 5:9 わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませるのです。**

(1) これは、格言を使った警告である。

①パン種は、間違った教えの象徴として用いられる。

②1 コリ 5 : 6

**1Co 5:6 あなたがたが誇っているのは、良くないことです。わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませることを、あなたがたは知らないのですか。**

(2) ここでは、2つの意味が考えられる。

①律法主義を受け入れる信者は少数であっても、群れ全体に影響を及ぼす。

②教理的逸脱は小さなものであっても、福音そのものを破壊する。

## 3. 10節

**Gal 5:10 あなたがたが別の考えを持つことは決してないと、私は主にあって確信しています。しかし、あなたがたを動揺させる者は、だれであろうと、さばきを受けます。**

(1) パウロは、ガラテヤ人たちの判断力に信頼を置いている。

①パウロは、彼らが福音以外のものを信じることはないことを確信している。

②これは、良き羊飼いは羊たちを守ってくださるという確信の表明である。

(2) 律法主義者のリーダーは、さばきを受ける。

①誤った教えによって教会全体に悪影響を及ぼすのは、重大な罪である。

②1 コリ 3 : 17

**1Co 3:17 もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。**

## II. 十字架のつまずき (11~12節)

### 1. 11節

**Gal 5:11 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝えているなら、どうして今なお迫害を受けているのですか。それを宣べ伝えているなら、十字架のつまずきはなくなっているはず**

(1) かつてのパウロはパリサイ派に属し、割礼を教えていた。

①今もパウロは、割礼を教えるという噂が広まっていたのであろう。

②しかし、今はそうではない。

③迫害を受けているという事実が、その証拠である。

(2) パウロは、今なお迫害を受けている理由を説明する。

- ①割礼の代わりに、恵みと信仰による救いを宣べ伝えるようになった。
- ②十字架による救いは、ユダヤ人たちにとっては「つまづき」である。
- ③パウロの福音は、ユダヤ人たちにとっては依然として「つまづき」である。

## 2. 12節

**Gal 5:12 あなたがたをかき乱す者たちは、いっそのこと切除してしまえばよいのです。**

(1) パウロは、律法主義者たちに対して厳しい叱責の言葉を語っている。

①新共同訳が参考になる。

**Gal 5:12 あなたがたをかき乱す者たちは、いっそのこと自ら去勢してしまえばよい。**

- ②「割礼を重視する者たちは、いっそのこと器官全部を切除したらよい」
- ③これは、ユダヤ的皮肉である。

\*パウロは、婉曲に「切除」と言っており、「去勢」とは言っていない。

④ユダヤ人にとっては、去勢は忌むべきことである。

\*申 23 : 1

## Ⅲ. キリスト者の自由 (13～15節)

### 1. 13節

**Gal 5:13 兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。**

(1) ガラ 5 : 1 の再確認

**Gal 5:1** キリストは、自由を得させるために私たちが解放してくださいました。ですから、あなたがたは堅く立って、再び奴隷のくびきを負わされないようにしなさい。

①信者は、キリストによって自由な者とされた。

②それゆえ、奴隷のくびきを負わされないように注意する必要がある。

(2) さらに、その自由をどういう目的で用いるかについて、熟慮する必要がある。

①「肉の働く機会としないで、」

\*古い性質に従った放縦な生活をしてはならない。

\*この自由は、何をしても許されるという自由ではない。

②「愛をもって互いに仕え合いなさい」

\*自由のゴールは、愛である。

\*「仕える」は、ギリシア語の「デューレウオウ」という動詞である。

\*信者の愛は、互いに対して奴隷となることによって表現される。

\*私たちは、奴隷から自由人とされた。

\*それゆえ、愛によって互いの奴隷となるのである。

## 2. 14～15節

**Gal 5:14** 律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことばで全うされるのです。

**Gal 5:15** 気をつけなさい。互いに、かみつき合ったり、食い合ったりしているなら、互いの間で滅ぼされてしまいます。

(1) 愛の行為は、律法全体を全うする。

①パウロは、レビ 19 : 18 を引用している。

②クリスチャンの愛は、律法全体を全うする。

(2) ガラテヤの教会には分裂があった。

①福音に留まる信者と、律法主義者の影響を受ける信者がいた。

②彼らは、相手を非難し合っていた。

\*カニバリズム(共食い)という用語が、この争いの醜さを表現している。

③この状態は、互いに対する愛の実践とは遠くかけ離れていた。

④この状態が続けば、未信者に対する信者や教会の証しが、破壊されてしまう。

## 結論：

### 1. 十字架のつまずき (ガラ 5 : 11)

**Gal 5:11** 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝えているなら、どうして今なお迫害を受けているのですか。それを宣べ伝えているなら、十字架のつまずきはなくなっているはずですよ。

(1) 十字架は、ユダヤ人にとっては「つまずき」である。

①1 コリ 1 : 23～24

**1Co 1:23** しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、

**1Co 1:24** ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。

②ガラ 3 : 13

**Gal 3:13** キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。

\*申 21 : 23 の引用

- ③ユダヤ人たちは、勝利者としてのメシアを求めていた。
- (2) 十字架は、異邦人にとっても「つまずき」である。
  - ①福音を受け入れるためには、自らの無力を認める必要がある。
  - ②人間的な努力によって、救いが得られるわけではない。
  - ③また、人間の業が救いに貢献するわけでもない。
  - ④これは、人間の自尊心に対する挑戦である。

## 2. 自由の目的（ガラ5：14）

**Gal 5:14** 律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことばで全うされるのです。

- (1) レビ 19：18 の引用

- ①主イエスもこの聖句を引用された。
- ②マタ 22：39

**Mat 22:39** 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

- (2) クリスチャンの愛は、律法が成就したものである。

- ①ロマ 13：8

**Rom 13:8** だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。

- (3) イエス・キリストによる信者の一致を求める祈り。

- ①ヨハ 17：21

**Joh 17:21** 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。

- ②これは、エキュメニカル（教会一致）運動が好んで引用する聖句である。
- ③しかし、ヨハ 17：19 には、「真理による聖別」の祈りが出て来る。
- ④イエスのこの祈りは、聖霊が降臨したペンテコステの日に成就した。
  - \*新生した信者は、同じ一つのからだに連なった。
- ⑤パウロは、真理において妥協した一致を勧めているのではない。
- ⑥パウロは、福音の真理に立った信者の一致を勧めている。

**ガラテヤ 15回**  
**「罪に打ち勝つ秘訣は何か」**  
**ガラ 5:16~21**

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

①5章の内容

- \* 律法主義の弊害（1～6節）
- \* 自由の使い方（7～15節）
- \* 罪に対する勝利（16～21節）
- \* 御霊の実（22～26節）

- ②今回は、罪に対する勝利（16～21節）を取り上げる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 2つの性質（16～18節）
- (2) 肉のわざ（19～21節）

3. 結論：クリスチャン生活のチェックポイント

罪に対する勝利について学ぶ。

**I. 2つの性質（16～18節）**

1. 16節

**Gal 5:16** 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。

- (1) ガラ 5:15 の再確認

**Gal 5:15** 気をつけなさい。互いに、かみつき合ったり、食い合ったりしているなら、互いの間で滅ぼされてしまいます。

①信者同士の争いを解決する唯一の方法は、御霊による歩みである。

(2) 「私は言います」

①パウロは、使徒の権威を用いて、ガラテヤ人たちに命令している。

②これは、神が命令しているのと同じである。

(3) 「歩みなさい」

①ギリシア語の「ペリパテオウ」という動詞が用いられている。

②この動詞は、現在形の命令法になっている。

③意識すると、「御霊によって歩み続けなさい」となる。

④「御霊により頼む習慣を身に付けなさい」という訳も可能である。

⑤「歩む」とは「習慣的行動」を示す比喩的言葉である。

⑥習慣が身につくためには、時間がかかる。

(ILL) 模様替えをした後、それに馴染むのに時間がかかる。

(4) 「御霊によって」

①信者には、内住の聖霊が与えられている。

②しかし、聖霊が自動的に働きを開始するわけではない。

③信者が依り頼むまでは、聖霊は働きを開始しない。

④それゆえ、静まって聖霊の導きを求める必要がある。

⑤聖霊とのコミュニケーションラインを常に維持することを心がける。

(ILL) 調子の悪い掃除機

(5) 「そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません」

①信者になってからも、罪の性質は内に宿っている。

②しかし、信者は肉の性質に従う必要はない。

③「肉の欲望を満たす」とは、単に肉欲を満たすことではない。

\*これは、罪の性質を満足させることである。

④聖霊の導きにより頼む人は、罪の性質を外側の行為に出すことがなくなる。

⑤なぜなら、聖霊の支配と肉の性質の支配が並存することはないからである。

⑥ギリシア語では、「ウー メイ」という二重否定となっている。

\*強意の否定なので、「決してありません」という訳は正確である。

**Gal 5:17** 肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。

(1) 信者には、相対立する2つの性質がある。

①ひとつは、両親を経由して受け継いだアダムの性質である。

\*「肉」は、古い性質の擬人法である。

②もうひとつは、イエス・キリストを信じて新生した時に受けた新しい性質。

\*これは、神の性質とも言われる(2ペテ1:4)。

**2Pe 1:4** その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

(2) 2つの性質には、それぞれ欲するものがある。

①古い性質は、悪を追求する。

\*古い性質とは、言い換えれば、罪に仕える能力のことである。

②新しい性質は、聖なるものを追求する。

\*新しい性質とは、言い換えれば、神と義に仕える能力のことである。

③この2つの性質は、常に対立し、相容れないものである。

④なぜ神は、新生した時に古い性質を取り除かれないのか。

\*それは、信者に霊的教訓を学ばせるためである。

\*自分が常に聖霊により頼む必要のある存在であることを学ぶため。

\*イエス・キリストを通して父なる神をほめたたえることを学ぶため。

\*古い性質の最終的な処理は、栄化の時に行われる。

⑤信者の魂の所有権を巡って、キリストと悪魔が争っている。

(3) 「この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります」

①ガラ5:17(新共同訳)

**Gal 5:17** 肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているのです、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。

②善を行おうとしても、それができない。

③それができるようになるためには、聖霊により頼まなければならない。

### 3. 18節

**Gal 5:18** 御霊によって導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。

(1) 2つの力(聖霊の導きと肉の欲望)のどちらが勝つかで、結果が違ってくる。

①聖霊の導きが勝つなら、その人は自由人であり、律法の下にはいない。

- ②「律法の下にはいない」＝「肉の欲求に支配されていない」  
\*律法主義に惹かれていくのは、肉の欲求が原因である。
- ③聖化は、聖霊の働きによって進展する。

(2) これ以降、「肉のわざ」と「御霊の実」の対比が行われる。

- ①肉のわざ (19～21 節)
- ②御霊の実 (22～26 節)

## II. 肉のわざ (19～21 節)

### 1. 19 節 a

**Gal 5:19a** 肉のわざは明らかです。

(1) 「肉のわざは明らかです」

- ①肉のわざとは、内にある肉の性質が行為となって現れたものである。
- ②ここでは、15 種類の肉のわざがリストアップされている。

### 2. 19b～21 節 a

**Gal 5:19b** すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、

**Gal 5:20** 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、

**Gal 5:21a** ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。

(1) このリストは、4つに区分して考えると分かりやすい。

- ①性的罪
- ②宗教的罪
- ③社会的罪
- ④飲酒に関する罪

(2) 性的罪 (3つ)

①淫らな行い

- \*ギリシア語で「ポルネイア」、英語で「fornication」。
- \*ポルノグラフィーの語源
- \*不適切な性的関係の総称

②汚れ

- \*ギリシア語で「アカサーシア」、英語で「impurity」。
- \*思索、言葉、行いにおける道徳的汚れの総称

③好色

- \*ギリシア語で「アセルゲイア」、英語で「debauchery」。

\*外に現れた恥知らずの罪。放蕩。

(3) 宗教的罪 (2つ)

④偶像礼拝

\*偶像を神として、その前にひれ伏す行為

\*性的罪と深い関係がある。

⑤魔術

\*ギリシア語で「ファーマケイア」、英語で「witchcraft」。

\*「ファーマシー」の語源。薬局、薬学。

\*酩酊状態を作り出すために、ドラッグが使用された。

\*患難期には、魔術が広がる(黙9:21、18:23)。

(4) 社会的罪 (8つ)

⑥敵意

⑦争い

⑧そねみ

⑨憤り

⑩党派心

⑪分裂

⑫分派

⑬ねたみ

(5) 飲酒に関する罪 (2つ)

⑭泥酔

⑮遊興

(6) 「そういった類のものです」

①このリストは、例示的なものであることを示している。

3. 21節b

**Gal 5:21b** 以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。

(1) パウロは、ガラテヤ人たちの所にいた時に、このことを明確に教えていた。

①このような罪のレベルに留まり続けている者は、神の国を相続できない。

②これは、信者でも救いを失う可能性があるという意味ではない。

③習慣的に罪の中を歩んでいるのは、まだ神の子になっていない証拠である。

④パウロの警告は、自分が救われているかどうかの自己吟味を迫る。

### 結論：クリスチャン生活のチェックポイント

(ILL) フォローアップの重要性 (鮭を獲って帰る熊の話)

1. 自分の内に2つの性質が宿っているだろうか。
  - (1) 内的葛藤を感じないなら、新しい性質が宿っていない可能性がある。
  - (2) 新生していないなら、聖霊の内住はない。
  - (3) そういう人は、福音に耳を傾け、恵みと信仰によって救われる必要がある。
  
2. 聖霊とのコミュニケーションラインを保っているだろうか。
  - (1) 日々のデボーションを通して、聖霊の声を聞く必要がある。
  - (2) 瞬間瞬間、聖霊とのつながりを維持する必要がある。
  
3. 聖霊により頼み、聖霊に道を譲っているだろうか。
  - (1) 聖霊を利用するのではなく、聖霊に主導権を明け渡す必要がある。
  - (2) その結果、聖い選択をすることができるようになる。
  
4. キリストの栄光が表われることを心から願っているだろうか。
  - (1) 聖霊の働きのゴールは、キリストの栄光を表わすことである。
  - (2) ピリ 1:20

Php 1:20 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。

(3) 2テサ 1:12

2Th 1:12 それは、私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、私たちの主イエスの名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためです。

(4) 黙 5:8~10

Rev 5:8 巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、豎琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。

Rev 5:9 彼らは新しい歌を歌った。／「あなたは、巻物を受け取り、／封印を解くのにふさわしい方です。／あなたは屠られて、／すべての部族、言語、民族、国民の中から、／あなたの血によって人々を神のために贖い、

Rev 5:10 私たちの神のために、彼らを王国とし、／祭司とされました。／彼らは地を治めるのです。」

## ガラテヤ 16回

### 「聖霊がもたらす人格的变化とは何か」

#### ガラ 5 : 22~26

#### 1. はじめに

##### (1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

##### (2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

##### (3) 文脈の確認

###### ①5章の内容

- \* 律法主義の弊害（1～6節）
- \* 自由の用い方（7～15節）
- \* 罪に対する勝利（16～21節）
- \* 御霊の実（22～26節）

②今回は、御霊の実（22～26節）を取り上げる。

③肉のわざと御霊の実が対比されている（ガラ 5：19～21）

Gal 5:19 肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、

Gal 5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、

Gal 5:21 ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。

#### 2. メッセージのアウトライン

- (1) 御霊の実（22～23節）
- (2) 御霊による歩み（24～26節）

#### 3. 結論

- (1) 賜物としての聖霊
- (2) 御霊の賜物
- (3) 御霊の実

御霊の実について学ぶ。

## I. 御霊の実 (22~23 節)

はじめに

(1) 御霊の実は、人間が作り出すものではない。

①ガラ 5 : 17

Gal 5:17 肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。

②肉の働きと御霊の働きは、対立する。

③御霊の実は、聖霊が信者の内に作り出すものである。

④実(カルポス)は、単数形である。

⑤御霊の実は、さまざまな資質を持った結合体(統一体)である。

⑥ここでは、9つの資質がリストアップされる。

\*3×3

### 1. 最初の3つの資質(習慣的な心の在り方) (22 節 a)

Gal 5:22a しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、

(1) 愛(アガペ)

①最初に「愛」が出て来るのは、他の特徴を統合する土台となるからである。

②神は愛である。

③ヨハ 3 : 16

Joh 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

④1ヨハ 4 : 8

1Jn 4:8 愛のない者は神を知りません。／神は愛だからです。

⑤聖霊に支配された人の内に生れる愛は、このような自己犠牲の愛である。

(2) 喜び(カラ)

①これは、心の深い所に継続して存在する喜びである。

②これは、状況に左右されない喜びである。

③ヨハ 15 : 11

Joh 15:11 わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

(3) 平安(エイレイネイ)

①試練の中でも動じることのない心の安定と静寂のことである。

②これは、人知を超えた静寂である。

③ピリ 4:7

Php 4:7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

## 2. 次の3つの資質（隣人に向かって示される行為）（22節 b）

①愛、喜び、平安から生まれて来る資質である。

### Gal 5:22b 寛容、親切、善意、

#### (1) 寛容（マクロスミア）

①これは、挑発に対する忍耐力、辛抱強さである。

②傷つけられても、復讐心を抱かないことである。

③コロ 1:11

Col 1:11 神の栄光の支配により、あらゆる力をもって強くされ、どんなことにも忍耐し、寛容でいられますように。

#### (2) 親切（クレストテイス）

①神が罪人に示される好意的な御業である。

②隣人に対して好意を示すことである。

③ロマ 2:4（いつくしみ）

Rom 2:4 それとも、神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。

#### (3) 善意（アガソスネイ）

①心がまっすぐな状態のことであり、隣人に対する行為でもある。

②相手が善意を受けるに値しないときでも、手を差し伸ばすことである。

## 3. 最後の3つの資質（御霊に導かれた信者の一般的な行為）（22c～23節 a）

### Gal 5:22c 誠実、

### Gal 5:23a 柔和、自制です。

#### (1) 誠実（ピスティス）

①他者から信頼されるという資質である。

②ルカ 16:10（忠実）

Luk 16:10 最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実であり、最も小さなことに不忠実な人は、大きなことにも不忠実です。

#### (2) 柔和（プラオテイス）

- ①神のことばに対して忠実であること。
- ②過ちに陥っている人を、優しく正すこと。
- ③ガラ 6 : 1

**Gal 6:1** 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。

(3) 自制 (エンクラテイア)

- ①肉の願いを制御する力である。
- ②これは、聖霊の力によってしか得られない資質である。
- ③1 コリ 9 : 25

**1Co 9:25** 競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

まとめ

**Gal 5:23b** このようなものに反対する律法はありません。

- (1) ここでパウロは、持って回った言い方をしている。
  - ①御霊の実の素晴らしさを強調するためである。
  - ②律法は、御霊の実の資質を持った信者を有罪にすることができない。

## II. 御霊による歩み (24~26 節)

### 1. 24 節

**Gal 5:24** キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。

- (1) キリスト・イエスにつく者
  - ①信仰によって、キリスト・イエスのものとなった人
  - ②信仰によって、キリスト・イエスと一体化した人
- (2) その人は、肉の性質に支配される必要はない。
  - ①自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけた。
  - ②これは自力で行ったことではない。
  - ③イエスを信じた時に、その人はイエスと一体化した (聖霊のバプテスマ)。
  - ④これは、100%聖霊の御業である。
  - ⑤信者は、「イエスの死と復活」と一体化した。
  - ⑥ガラ 2 : 19~20

**Gal 2:19** しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。

**Gal 2:20** もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

(3) しかし、罪の性質が完全に取り除けられたわけではない。

①信者には、罪の性質に勝利する方法が与えられた。

\*自分が罪に対して死に、神に対して生きる者となったことを認める。

\*聖霊に依り頼む生活を継続する。

## 2. 25～26 節

**Gal 5:25** 私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進もうではありませんか。

**Gal 5:26** うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりしないようにしましょう。

(1) 信者は、聖霊によって新生体験をした。

①それゆえ、日々、聖霊によって進むべきである。

②信者の歩みは、聖霊の導きと励ましに従ったものになるべきである。

(2) そうでないなら、肉の性質が働き始める（ガラ 5：19～21 参照）。

①うぬぼれ、挑み合い、妬み合い

②律法主義者の影響を受けたガラテヤの諸教会は、分裂状態に陥っていた。

## 結論

### 1. 賜物としての聖霊

(1) 使 2：38

**Act 2:38** そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

(2) これは、聖霊の内住の約束である。

①すべての信者の内には、聖霊が住んでおられる。

### 2. 御霊の賜物

(1) 神が教会を建て上げるために与えた賜物である。

①コリント教会には、御霊の賜物の誤用があった。

(2) 1 コリ 12～14 章

- ①12章は、御霊の賜物の性質と目的を描写している。
- ②13章は、愛の優越性を教えている。
- ③14章は、愛による御霊の賜物の行使について教えている。

(3) 御霊の賜物は、いつか不要になる。

3. 御霊の実

(1) 聖霊は、信者の内にキリストのすがたを形作られる。

(2) 御霊の実とは、キリストのすがたのことである。

(3) 2 コリ 3 : 18

2Co 3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

(4) ヨハ 15 : 5

Joh 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

**ガラテヤ 17回**  
**「御霊に導かれた奉仕」**  
**ガラ 6：1～10**

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

①6章の内容

\*奉仕の人生（1～10節）

\*最後の警告と祝祷（11～18節）

②今回は、奉仕の人生（1～10節）を取り上げる。

\*信者はモーセの律法から解放され、今はキリストの律法の下にある。

\*「キリストの律法」（2節）の実行は、御霊の助けによって可能になる。

\*4種類の人たちへの奉仕が取り上げられる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 罪を犯した信者への奉仕（1節）
- (2) 重荷を負っている信者への奉仕（2～5節）
- (3) 教師（牧師）への奉仕（6～9節）
- (4) すべての人への奉仕（10節）

3. 結論：御霊の実と奉仕の関係

御霊に導かれた奉仕について学ぶ。

**I. 罪を犯した信者への奉仕（1節）**

1. 1節

**Gal 6:1** 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。

(1) 「だれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、」

- ①パウロは、仮定のケースを想定し、それにどう対処すべきかを教えている。
- ②信者は、罪を犯さないように気を付けていても、不注意で罪を犯す。
- ③そうなった人を正すのは、霊的幼子の役割ではなく、霊的成人の役割である。

(2) 霊的成人とは、御霊に導かれている人、つまり「御霊の人」である。

- ①御霊の人は、柔和な心で罪に陥っている人を正す。
- ②繊細な配慮が必要な奉仕なので、柔和な心が必要とされる。
- ③律法主義者は、罪に対して厳しく対応する。
- ④ヨハ8:3~5

**Joh 8:3** すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、

**Joh 8:4** イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。」

**Joh 8:5** モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」

(3) 訳文の比較

「柔和な心でその人を正してあげなさい」（新改訳 2017）

「そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい」（新共同訳）

「柔和な心をもって、その人を正しなさい」（口語訳）

「柔和なる心をもて之を正すべし」（文語訳）

- ①ギリシア語の動詞は、「カタルティゾウ」である。
- ②用意する、回復する、網を繕う、船団を導く、などの意味がある。

(4) 「また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい」

- ①誰にでも罪を犯す危険性があるという前提で奉仕する必要がある。
- ②自分自身も例外ではない。
- ③その視点で、罪を犯した兄弟に柔和な心で接する。

(ILL) 厳しいメッセージを語るテレビ伝道者。スキャンダルが発覚した。

## II. 重荷を負っている信者への奉仕 (2~5 節)

### 1. 2 節

**Gal 6:2 互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。**

(1) 「互いの重荷を負い合いなさい」

- ①この教えは、すべての「重荷」に適用されるものである。
- ②文脈上、ここでの「重荷」は、罪責感から来るものである。
- ③罪責感は、人の魂を窒息させる。
- ④苦しんでいる人をひとりにするのではなく、互いに助け合うべきである。

(2) 罪を犯した人を回復する奉仕は、御霊の人の役割である。

- ①それ以外の信者も、祈りと励ましの言葉によって回復の奉仕に参加する。
- ②これは愛の行為である。

(3) 「キリストの律法を成就することになります」

- ①「キリストの律法」とは、愛の律法である。
- ②ヨハ 13：34

**Joh 13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。**

2. 3～4 節

**Gal 6:3 だれかが、何者でもないのに、自分を何者かであるように思うなら、自分自身を欺いているのです。**

**Gal 6:4 それぞれ自分の行いを吟味しなさい。そうすれば、自分にだけは誇ることができても、ほかの人には誇ることができなくなるでしょう。**

(1) 互いに重荷を負い合えない最大の原因は、思い上がりである。

- ①自分は誘惑に負けるような人間ではないという思い上がりである。
- ②自分は隣人よりもすぐれていると考える思い上がりである。
- ③そういう人は、自分自身を欺いている。

(2) 思い上がりへの対処法は、他者との比較を止めることである。

- ①自分の行動を吟味する。
- ②「吟味」は、ギリシア語で「ドキマゾウ」という動詞である。
- ③他者と比較するのではなく、自分が何を為したかをテストする。
- ④訳文の比較

「ほんとうに最善を尽くしているかどうか、もう一度、点検しなさい。そうすれば、よくやれたと自分で満足でき、他人と、とやかく比較することもなくなるでしょう」 (リビングバイブル)

「一人一人、自分のすることをしらべてみよ。するとその時、誇る理由は自分自身にだけあって、（決して）他人に（比較して誇るべきで）ない（ことに気づく）であろう」（塚本）

⑤キリストの御座の裁きは、各人の奉仕が対象。他者との比較ではない。

⑥自己吟味を行ったなら、神の恵みによって生かされていることが分かる。

#### 4. 5節

**Gal 6:5 人はそれぞれ、自分自身の重荷を負うことになるのです。**

(1) 他者との比較が無意味な理由が語られる。

①2節の重荷は、ギリシア語で「バロス」である。

\*「バロス」は、ひとりでは負いきれない重荷である。

②5節の重荷は、ギリシア語で「フォルティオン」である。

\*「フォルティオン」は、兵士が背中に負う荷物である。

(2) 各人が負うべき重荷がある。これは他者と分かち合うことができない。

①マタ 11 : 29～30

**Mat 11:29** わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

**Mat 11:30** わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

### III. 教師（牧師）への奉仕（6～9節）

#### 1. 6節

**Gal 6:6** みことばを教えてもらう人は、教えてくれる人と、すべての良いものを分かち合いなさい。

(1) 教師と生徒の間にも、重荷を負い合う関係が存在する。

①律法主義者の悪影響で、教師と生徒の間に亀裂が入っていたのであろう。

(2) 「すべての良いものを分かち合いなさい」

①この中には、物質的援助が含まれている。

②フルタイムの奉仕者は、信徒の献金で支えられる必要がある。

③自発的な献金は、ユダヤ人たちにとっては新しい教えであった。

\*ユダヤ人たちは、祭司や神殿を支えるために税金を払っていた。

#### 2. 7～8節

**Gal 6:7** 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

**Gal 6:8** 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。

- (1) 文脈から言うと、これは教師を援助することに関する警告と考えられる。
  - ①「神は侮られるような方ではありません」
  - ②「人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります」
- (2) 肉の思いを満足させるためにお金を使うなら、滅びを刈り取る。
  - ①肉体的、道徳的腐敗が増して行く。
  - ②死後の世界において、報奨はない。
- (3) 御霊の思いを実行するためにお金を使うなら、永遠のいのちを刈り取る。
  - ①この世の生活において、永遠のいのちの前味を味わうようになる。
  - ②死後の世界において、永遠のいのちを体験するようになる。

### 3. 9節

**Gal 6:9** 失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。

- (1) 「失望せずに善を行いましょう」
  - ①結果がすぐに出ないので、御霊に蒔くことに疲れることがある。
  - ②パウロ自身が、失望の意味を一番良く知っていた。
  - ③しかし、あきらめないで続けるべきである。
- (2) 「時が来て刈り取ることになります」
  - ①いつか、収穫の時が来る。
  - ②究極的には、この約束は、キリストの御座の裁きにおいて成就する。

## IV. すべての人への奉仕 (10節)

### 1. 10節

**Gal 6:10** ですから、私たちは機会があるうちに、すべての人に、特に信仰の家族に善を行いましょう。

- (1) クリスマンは、すべての人に対して奉仕する責務がある。
  - ①ただし、信仰の家族が優先されるべきである。
  - ②家庭生活での優先順位は、家族、そして隣人である。

結論：御霊の実と奉仕の関係

1. 罪を犯した信者への奉仕（1節）

(1) 柔和（プラオテイス）

- ①神のことばに対して忠実であること
- ②過ちに陥っている人を、優しく正すこと

(2) 平安（エイレイネイ）

- ①試練の中でも動じることのない心の安定と静寂のことである。
- ②これは、人知を超えた静寂である。

(3) 寛容（マクロスミア）

- ①これは、挑発に対する忍耐力、辛抱強さである。
- ②傷つけられても、復讐心を抱かないことである。

2. 重荷を負っている信者への奉仕（2～5節）

(1) 愛（アガペ）

- ①神は愛である。
- ②聖霊に支配された人の内に生れる愛は、自己犠牲の愛である。

(2) 喜び（カラ）

- ①これは、心の深い所に継続して存在する喜びである。
- ②これは、状況に左右されない喜びである。

(3) 自制（エンクラテイア）

- ①肉の願いを制御する力である。
- ②これは、聖霊の力によってしか得られない資質である。

3. 教師（牧師）への奉仕（6～9節）

(1) 善意（アガソスネイ）

- ①心がまっすぐな状態のことであり、隣人に対する行為でもある。
- ②相手が善意を受けるに値しないときでも、手を差し伸ばすことである。
- ③ましてや、教師は善意を受けるに値する。

(2) 誠実（ピスティス）

- ①他者から信頼されるという資質である。

4. すべての人への奉仕（10節）

(1) 親切（クレストテイス）

- ①神が罪人に示される好意的な御業である。
- ②隣人に対して好意を示すことである。

ガラテヤ最終回（18回）

「大事なのは新しい創造」

ガラ 6：11～18

1. はじめに

(1) ガラテヤ人への手紙の位置づけ

- ①ガラテヤ地方の諸教会は、律法主義者の教えの影響を受けた。
- ②パウロは、律法主義者の教えに反論する必要を感じ、この書簡を書いた。

(2) ガラテヤ人への手紙のアウトライン

- ①個人的弁明：パウロの使徒職（1：1～2：21）
- ②教理的教え：信仰義認（3：1～4：31）
- ③実践的教え：キリスト者の自由（5：1～6：18）

(3) 文脈の確認

①6章の内容

\*奉仕の人生（1～10節）

\*最後の警告と祝祷（11～18節）

②今回は、「最後の警告と祝祷」（11～18節）を取り上げる。

\*ガラテヤ書の要約が書かれている。

\*パウロの個人的な思いが書かれている。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 自筆による署名（11節）
- (2) 福音の敵（12～13節）
- (3) 信者の誇り（14～16節）
- (4) 祝祷（17～18節）

3. 結論

- (1) ガラテヤ 6：16
- (2) ガラテヤ 6：15

最後の警告と祝祷について学ぶ。

I. 自筆による署名（11節）

1. 11節

**Gal 6:11** ご覧なさい。こんなに大きな字で、私はあなたがたに自分の手で書いています。

(1) 最後にパウロ自身がペンを採り、残りの部分を書いている。

- ① 当時は、書記を用いて口述筆記をするのが一般的であった。
- ② パウロは、手紙の最後の部分だけは、自筆で書く習慣があった。
- ③ **1 コリ 16 : 21**

**1Co 16:21** 私パウロが、自分の手であいさつを記します。

- ④ **コロ 4 : 18**

**Col 4:18** 私パウロが自分の手であいさつを記します。私が牢につながれていることを覚えていてください。どうか、恵みがあなたがたとともにありますように。

- ⑤ **2 テサ 3 : 17**

**2Th 3:17** 私パウロが自分の手であいさつを記します。これは、私のどの手紙にもあるしるしです。このように私は書くのです。

(2) 「こんなに大きな字で」

- ① 大文字を使用した可能性がある。
- ② パウロの視力に問題があった可能性を指摘する人もいる。
- ③ 手紙の最後の部分を強調するために大きな字にした可能性もある。  
\* その場合は、「自分の手で書いています」の部分がポイントになる。

## II. 福音の敵 (12~13 節)

### 1. 12~13 節

**Gal 6:12** 肉において外見を良くしたい者たちが、ただ、キリストの十字架のゆえに自分たちが迫害されないようにと、あなたがたに割礼を強いています。

**Gal 6:13** 割礼を受けている者たちは、自分自身では律法を守っていないのに、あなたがたの肉を誇るために、あなたがたに割礼を受けさせたいのです。

\* 福音の敵とは、律法主義者である。

\* 律法主義者の 3 つの特徴が上げられる。

(1) 律法主義者は、外見を良く見せることだけに興味がある。

- ① 彼らは、自分たちに従って来る信者の人数を誇りとしていた。
- ② 儀式的宗教は、自分の生活を変える必要がないので、受け入れ易い。
- ③ パウロの福音は、狭い道であり、ハードルが高い。
- ④ 今も、広い道を提示し、ハードルを下げることで、人数を増やす教会がある。
- ⑤ キリストのしもべは、霊的ポピュリストになってはいけない。

(2) 律法主義者は、迫害を受けることを恐れている。

- ①彼らは、十字架はユダヤ人にとって「つまずき」であることを知っていた。
- ②「信仰+割礼」が救いの条件であると教えるなら、迫害の可能性は弱まる。

(3) 律法主義者は、自分自身では律法を守らない。

- ①にもかかわらず、割礼を受けさせた信者の人数を誇りたい者たちである。
- ②彼らにとっては、律法の強制が最も容易に改宗者を作り出す方法である。
- ③彼らは、律法を守ることに興味はない。
- ④また、割礼を受けた信者の霊的状态にも興味はない。

### Ⅲ. 信者の誇り (14~16 節)

#### 1. 14 節

Gal 6:14 しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません。この十字架につけられて、世は私に対して死に、私も世に対して死にました。

(1) 訳文の比較

「主キリスト・イエスの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません」 (新改訳 2017)

「God forbid that I should glory, save in the cross of our Lord Jesus Christ,」 (KJV)

「But far be it for me to glory, save in the cross of our Lord Jesus Christ,」 (ASV)

(2) ここには、律法主義者とパウロの対比がある。

- ①律法主義者は、律法を誇り、十字架を恥とした。
- ②パウロは、十字架だけを誇りとした。

(3) イエス・キリストを信じた者の体験 (パウロの体験)

- ①信仰によって、イエス・キリストと一体化した。
- ②その結果、この世から切り離された (死んだ)。
- ③この世のシステム (悪魔が支配する価値観) に対して別れを告げた。
  - \*イエス・キリストの内に究極的な満足を見出した。
  - \*その結果、この世は何の魅力もないものとなった。
- ④この世も、信者に別れを告げた。

#### 2. 15 節

**Gal 6:15** 割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なものは新しい創造です。

- (1) 割礼は、救いにはなんの関係もない。
  - ①信者は、信仰により、キリストにあって新しい立場を得た。
  - ②それゆえ、外面的な要素は、それがあってもなくても、問題ではなくなった。
- (2) 「大事なものは新しい創造です」
  - ①「新しい創造」とは、「新しく造り替えられる」ことである。
  - ②これは、御霊の働きによる。

### 3. 16節

**Gal 6:16** この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。

- (1) パウロは、2種類の信者の上に、平安とあわれみがあるようにと祈った。
  - ①異邦人信者とユダヤ人信者

#### (2) 訳文の比較

「どうか、この基準に従って進む人々、すなわち神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように」 (新改訳第3版)

「この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように」 (新改訳2017)

- ① (新改訳2017) は、訳文を改善した。
- ② 「この基準にしたがって進む人々」とは、恵みと信仰による救いを信じる異邦人信者たちである。
- ③ 「神のイスラエル」とは、ユダヤ人信者たちである。

## IV. 祝祷 (17~18節)

### 1. 17節

**Gal 6:17** これからは、だれも私を煩わせないようにしてください。私は、この身にイエスの焼き印を帯びているのですから。

- (1) パウロの使徒職と彼のメッセージは、律法主義者たちから攻撃を受けてきた。
  - ①パウロは、そういう攻撃はこれで終わりにして欲しいと言う。
  - ②パウロの信頼性を示す最後の証拠が、パウロの肉に残された傷である。
- (2) 「この身にイエスの焼き印を帯びているのですから」

- ①「焼き印」とは、所有権を示すために奴隷や家畜に記す印である。
  - \*かつてパウロは、律法の奴隷であった。
  - \*今では、自由意思に基づくイエスの奴隷となった。
- ②パウロにとっては、迫害によって受けた傷は、「イエスの焼き印」である。
- ③**2 コリ 11 : 24~25**

2Co 11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

2Co 11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

- ④肉体に残された傷は、パウロがキリストの所有物であることを示している。

## 2. 18節

**Gal 6:18 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。アーメン。**

### (1) 「兄弟たち」

- ①ガラテヤの信徒たちへの愛の表現である。

### (2) 「私たちの主イエス・キリストの恵み」

- ①パウロがこの書簡で一貫して主張してきたのは、「恵み」である。
- ②ガラテヤの信徒たちは、「恵み」の重要性を確信したに違いない。

## 結論

### 1. ガラテヤ 6 : 16

**Gal 6:16 この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。**

#### (1) 信仰義認の真理が、ガラテヤ教会の2つのグループに宣言された。

- ①「この基準にしたがって進む人々」とは、異邦人信者である。
- ②「神のイスラエル」とは、ユダヤ人信者である。

#### (2) 「この基準に従って進む人々、すなわち神のイスラエルの上に、」

**(新改訳第3版)**

- ①「この基準に従って進む人々」 = 「神のイスラエル」
- ②これは、置換神学に基づく解釈である。
- ③新約聖書には「イスラエル」が 65 回出て来る。すべてユダヤ人への言及。
- ④パウロは、信仰のあるユダヤ人と信仰のないユダヤ人を区別している。

#### (3) パウロのユダヤ人への愛は、決して揺らぐことはない。

## 2. ガラテヤ 6:15

**Gal 6:15** 割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なものは新しい創造です。

\*よく考えてみると、これはガラテヤ書の中心聖句である。

(1) 割礼は、ユダヤ教の土台である。

①律法主義者たちは、割礼を基に救いを論じた。

(2) パウロの論点

①パウロは、割礼には何の意味もないと切り捨てた。

\*割礼だけでなく、律法主義、律法に基づくユダヤ教を切り捨てた。

②さらにパウロは、無割礼を誇りとするこも、切り捨てた。

\*今も、一切の形式を否定することを誇りとする愚か者がいる。

③神の御前で大事なものは、「新しい創造」である。

\*神は、新しくされた人生を見ることを願っておられる。

\*この世には2種類の人しかいない。

\*生れながらの人と新生した人である。

\*信者の内に育つ人格は、人間の努力によってではなく、聖霊の御業によって育つ。

\*新生とは、古い生活のヴァージョンアップではなく全面的変更である。

\***2 コリ 5:17**

**2Co 5:17** ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。